



慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

パラメトリック統辞法 — 記述と説明

講師：福井直樹（上智大学）、成田広樹（東海大学）

司会・コメンテーター：北原 久嗣（慶應義塾大学）

日時：2026 年 10 月 24 日(土)～25 日(日) 13:30-17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館大会議室 ※対面開催のみ

使用言語：日本語

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

- * 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。
- * 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。
- * 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります。



本発表では、「きわめて制限された普遍文法（Universal Grammar, UG）から、なぜ、そしてどのようにして多様な自然言語が生じるのか」という問いを、日英語のパラメトリック統辞法（parametric syntax）に焦点を当てて考察する。ここで「パラメータ」（parameter）とは、人間言語の多様性・言語間変異を担う理論上の仕組みを指すカバータームとして用いる。パラメトリック統辞論は、生成文法、とりわけ原理・パラメータ（P&P）の枠組みにおいて、言語間変異を研究する分野として 1980 年代初頭に本格的な研究が始まったが、1990 年代以降の極小主義プログラムの展開の中で、その理論的位置付けは次第に不明瞭になっていった。

本発表では、この分野の主流とはならなかった、言語間変異の記述にとどまらず、パラメータ変異を手がかりとして UG そのものの改変・再構築を目指す研究、特に Fukui, Kuroda 等の研究の流れを概観し、それが現在の統辞理論においてどのように再解釈・発展させられるかを考える。特に、観察される言語間変異を説明するためにパラメータを増やすのではなく、その変異自体を UG の構造を再考し、単純化・統合するための手がかりとして捉える可能性に焦点を当てる。非有界併合（unbounded Merge）を基盤とする現代的な理論、さらに Narita & Fukui (2022) の対称化統辞法（Symmetrizing Syntax）へと議論をたどりながら、言語の多様性の説明と UG の単純化・統合という二つの課題の関係を検討する。

具体的には、一致、移動、主語、格などに見られる言語間変異を概観し、それらを説明するために生成文法が想定してきた「パラメータ」を、語彙パラメータ化（Lexical Parametrization）、機能範疇パラメータ化（Functional Parametrization）、外在化（Externalization）などの主要なアプローチを通して検討する。

※成田講師が担当するセッション（主に 2 日目）で、言語学理論・データのオープンアクセスデータベース GrammarXiv を用いた相互アンケート調査等を行う予定です。
ご協力いただける参加者は事前にアカウント登録をお願いします。
特に本コロキウムの参加者からの質疑コメントを受け付けるフォームを作成しましたので（会期前・会期後も有効）、自由にコメントしてください。

GrammarXiv 事前登録はこちら



コメント投稿はこちら



共催：科学研究費助成 基盤研究(C) 25K04101 『併合と最小探索に基づく日英語比較研究：統辞構造はどのように生成され解釈されるのか』

主催 慶應義塾大学言語文化研究所

【お問い合わせ先】

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595（事務室直通） メール：genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>